

## 平成30年度第2回臨時理事会 議事録

日 時： 平成30年6月23日（土）11：00～12：30

会 場： 都市センターホテル コスモスホールⅡ

出席者：

理 事 長：藤井 知行

副理事長：木村 正、八重樫 伸生

理 事：青木 大輔、板倉 敦夫、苛原 稔、榎本 隆之、岡本 愛光、加藤 聖子、北脇 城、  
吉川 史隆、京 哲、工藤 美樹、生水 真紀夫、関 博之、関沢 明彦、千石 一雄、  
竹下 俊行、寺田 幸弘、檜原 久司、蜂須賀 徹、三上 幹男、村上 節、山田 秀人

監 事：岩下 光利、櫻木 範明、平松 祐司

顧 問：小西 郁生、吉村 泰典

特任理事：海野 信也、大須賀 穰、荻田 和秀、宮城 悦子

幹 事 長：阪埜 浩司

副幹事長兼第71回学術集会プログラム委員長：梶山 広明

幹 事：岩瀬 春子、上田 豊、織田 克利、加藤 育民、河野 康志、岸 裕司、木村 文則、  
桑原 章、桑原 慶充、澤田 守男、関根 正幸、寺尾 泰久、西ヶ谷 順子、  
西郡 秀和、馬場 長、平田 英司、矢内原 臨、山上 亘、矢幡 秀昭

議 長：光田 信明

副 議 長：久具 宏司、田村 秀子

弁 護 士：平岩 敬一

名誉会員：落合 和徳、神保 利春、中林 正雄

事 務 局：青野 秀雄、吉田 隆人

11時00分 理事長、副理事長、常務理事、理事合わせて24名が出席（池田智明理事は欠席）し、定足数に達したため藤井知行理事長が開会を宣言した。藤井知行理事長が議長となり、議事録署名人として藤井知行理事長および岩下光利監事、櫻木範明監事、平松祐司監事の計4名を選出し、これを承認した。

### I. 平成30年度第1回理事会議事録の承認

本件について特に異議はなく、全会一致で原案通り承認された。

### II. 業務担当理事報告並びに関連協議事項

#### 1) 総 務（青木大輔理事）

〔I. 本会関係〕

(1) 会員の動向 特になし

(2) 専門委員会

(イ) 生殖・内分泌委員会

①子宮内膜症取扱い規約 第2部 第2版 治療編・診療編増刷について今後の販売を見込み、300部が増刷される予定である。初刷：2010年1月22日8,000部、2刷：2010年2月25日2,000部、3刷：2012年6月30日1,000部

②厚生労働省難治性疾患政策研究班が作成した稀少部位子宮内膜症診療ガイドラインについては、生殖・内分泌小委員会で内容を確認し、その意見を受けて一部修正されたが、同研究班からこのガイドラインについて本会の後援依頼を受領した。 [資料:総務0]  
本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(ロ) 婦人科腫瘍委員会

①会議開催

第1回婦人科腫瘍委員会	6月23日
-------------	-------

②第1回理事会(30.6.2)にて承認された「低侵襲広汎子宮全摘に関する小委員会」について次の体制で設立したい。 [資料:総務1]

委員長 榎本隆之

委員 日本産科婦人科学会:小林栄仁、永瀬智、山上亘

日本婦人科腫瘍学会:三上幹男

日本産婦人科内視鏡学会:寺井義人、藤井多久磨

日本婦人科ロボット手術学会:小林裕明、万代昌紀

**榎本隆之委員長**「本件は、複数の関連学会に跨る事案であることから、構成メンバーが9人となった。」  
本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

③「子宮頸癌とHPVワクチンについての勉強会」:メディア向けセミナー(6月18日)開催報告 [資料:総務1-1]

**榎本隆之委員長**「当日は30社のメディアに参加頂いた。内容について記者とのディスカッションも十分にできたとの印象である。M3のホームページに議論内容が詳しく紹介されているので、ご覧きたい。今後も、地方の大都市において地元のメディア記者に対する働きかけを計画したいと考えている。」

**加藤聖子理事**「福岡のメディアでも、積極的な接種勧奨中止から5年が経過したことをきっかけに、HPVワクチンについての特集を組む機会が増えている。記者自身の情報ニーズが高いことも分かっており、各地で地元メディアを対象にセミナーを開催することに賛成する。」

④HPVワクチンの勧奨再開に関して、科学的な議論によってのみこの問題を判断すべきという本会の考えを明らかにするため、「HPVワクチンをめぐる議論に関する声明」を出したい。

[資料:総務1-2]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(ハ) 周産期委員会

①厚労科研難治性疾患政策研究事業周産期心筋症班から、「周産期心筋症治療ガイドライン」の認定依頼があり、周産期委員会で検討している。 [資料:総務2]

(ニ) 女性ヘルスケア委員会

①書籍頒布状況(2018年6月21日現在)

ホルモン補充療法ガイドライン 2017 書籍版	2,851
ホルモン補充療法ガイドライン 2017 書籍版+電子版用ID・PW付	909
女性アスリートのヘルスケアに関する管理指針	773

(3)平成31年度日本産科婦人科学会予定表案について [資料:総務3]  
前回提示した予定表で2019年11月1日(金)に予定されている第3回常務理事会を、関連学会の学術集会を避けたいとの意見があり、11月5日(火)に変更したい。

本案で承認いただければ、平成31年度日本産科婦人科学会予定表として確定させたい。  
本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(4)第72回学術集会の運營業務委託業者について

**青木大輔第72回学術集会長**「計3社の提案について慎重に検討した結果、第72回学術集会は株式会社コングレに委託することとした。」

(5)順天堂大取り違え事件被害者からの手紙が、4月の同様の要望書に続いて週刊新潮編集部を通して送られてきた。

## 〔II. 官庁関係〕

### (1) 厚生労働省

①厚生労働省保健局保険課より、出産育児一時金等の受取代理制度の導入施設一覧表について周知依頼を受領した。本会ホームページに掲載して本会会員に周知したい。 [資料:総務4]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

### (2) 環境省

①環境省環境政策局から、平成30年度エコチル調査企画評価委員会への参画依頼を受領した。

現在の委員である竹下俊行先生の参画を求めている。 [資料:総務4-1]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

## 〔III. 関連団体〕

### (1) 日本医学会

①日本医学会を通して、厚生労働省医薬・生活衛生局医薬品審査管理課長より、「ニボルマブ(遺伝子組換え)製剤の最適使用推進ガイドライン(悪性黒色腫)」の一部改正について周知依頼を受領した。本会ホームページに掲載して本会会員に周知したい。 [資料:総務5]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

②日本医学会を通して、厚生労働省医政局総務課医療安全推進室長並びに医薬・生活衛生局医薬安全対策課長より、「高齢者の医薬品適正使用の指針(総論編)」について周知依頼を受領した。本会ホームページに掲載して本会会員に周知したい。 [資料:総務6]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

③日本医学会を通して、厚生労働省医政局医事課並びに政策統括官付人口動態・保健社会統計室より、「平成30年度版 死亡診断書(死体検案書)記入マニュアル」について周知依頼を受領した。本会ホームページに掲載して本会会員に周知したい。 [資料:総務7]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

### (2) 日本医学会連合

①6月19日に開催された日本医学会連合の平成30年度定時総会に阪埜浩司幹事長が出席した。

[資料：総務8]

**阪埜浩司幹事長**「日本医学会連合からは、学会同士の連携を強化したいとの話があった。今回、加盟学会間の分野横断的な連携・交流を深めることを目的に、複数の加盟学会による連携フォーラムの開催を支援することになった。支援内容は、連携フォーラム開催費用として30万円を補助するというものである。」

### (3) 日本がん治療認定医機構

日本がん治療認定医機構より、同機構が行う「2018年度 教育セミナー・認定医試験」について、本会会員向けの周知依頼を受領した。

[資料：総務9]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

## [IV. その他]

(1) エーザイ株式会社から、ディーシービーズの使用目的または効果の見直しについて連絡があり、本品の「子宮筋腫」の適応を取り下げるとのことである。

[資料：総務10]

(2) 一般財団法人土谷記念医学振興基金から今年度は日本国内在住の研究者を対象に「婦人科腫瘍薬物療法に関する臨床研究」についても支援することになったので、本会ホームページにおいて、助成金募集案内を掲載（当財団ホームページへのリンク）してほしいとの依頼があった。なお同財団は2年前に「産科領域についての研究」を助成金対象にしており、その際は本会も周知に協力している。

[資料：総務11]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

## 2) 会 計 (吉川史隆理事) 特になし

## 3) 学 術 (木村正副理事長)

### (1) 学術委員会

①「平成30年度神澤医学賞」ならびに「平成30年度上原賞（研究業績褒章）」候補者推薦推薦について

[資料：学術1-1, 学術1-2]

②平成30年度学術奨励賞の推薦および応募について

4分野の振興を図るべく、これまで応募・選出の少なかった女性ヘルスケア・周産期分野の選考方針等の連絡を發出する予定であるが、案内發出の対象・方法および選考委員への伝達の仕方については学術委員会に一任頂きたい。現在、臨時通信会議にて審議中である。[資料：学術2]

**木村正副理事長**「本賞は、ご存知のように日本産科婦人科学会における最高の賞の一つである。各分野から受賞者を出すという運営を目指すにあたり、振るって推薦頂きたい旨の手紙（資料：学術2）を発信したい。尚、合わせて誰宛に依頼状を発信するかについては学術委員会に一任頂きたい。」  
本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

#### 4) 編集 (加藤聖子理事)

##### (1) 会議開催

第1回編集担当理事会	6月2日
第2回和文誌編集会議・JOGR編集会議	7月20日 【予定】

##### (2) 英文機関誌 (JOGR) 投稿状況:

2018年JOGR投稿状況 2018年6月14日現在

投稿数	777
Accept	45
Reject	415
Withdrawn/Unsubmitted	103
Under revision(改訂提出待ち)	35
Under review (審査中)	177
Expired(再投稿提出期限超過)	2

2017年JOGR投稿状況 2018年6月14日現在

投稿数	1,487
Accept	244
Reject	1,110
Withdrawn/Unsubmitted	107
Under revision(改訂提出待ち)	9
Under review (審査中)	12
Expired(再投稿提出期限超過)	5

- (3) 和文機関誌との同梱については、6月2日理事会にて承認を得たので希望がある場合には10万円を申しうけることとし、案内を機関誌ならびに学会ホームページに掲載することとしたい。
- (4) 学術講演会二次抄録(講演要旨)に関して、二重投稿などを危惧されて執筆を断られる場合が見受けられるが、差しさわりのない範囲で本文だけでも投稿頂けるようにしたい。

#### 5) 渉外 (岡本愛光理事)

##### (1) AOFOG 関連

- ①6月7日にネパール カトマンズにて開催のAOFOG Council meeting に本会より岡本愛光渉外担当常務理事、加藤聖子編集担当常務理事、落合和徳 AOFOG President elect、万代昌紀 AOFOG Committee Chair を派遣した。 [資料: 渉外1]

##### (2) 日韓台関連

- ①第70回日産婦学会学術講演会後の第2回日韓台若手医師 Extended Exchange Program (5月14～19日) について [資料: 渉外2]

②KSOG 理事長より、Professor Sung-Bong Hong (Honorary Chairman of KSOG, Past President of AOFOG) ご逝去の通知を受け、本会より藤井理事長名の弔文を送付した。

(3) その他

①海外名誉会員の推薦について

[資料：渉外3]

岡本愛光理事より候補者（5名）についての個別紹介があった。

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

## 6) 社 保（北脇城理事）

(1) 会議開催

第1回社保委員会	7月20日（金）【予定】
----------	--------------

(2) 外保連より平成32年度診療報酬改定に向けた要望項目アンケート依頼を受領した。各産婦人科関連学会の要望を考慮し、11月30日までに本会からの要望項目を提出の予定である。

[資料：社保1]

(3) 7月17日（火）、日本外科学会にて開催のロボット支援手術に関する外保連記者懇談会に、本会より婦人科領域のロボット支援下腹腔鏡手術に関する委員会から万代昌紀委員長が出席し、講演を行う予定である。

## 7) 専門医制度（八重樫伸生副理事長）

(1) 会議開催

第2回中央専門医制度委員会、全国地方委員長会議	6月24日【予定】
第3回研修システム改修小委員会	6月25日【予定】

(2) 日本専門医機構

①会議開催

第1回専門医認定・更新部門委員会、基本領域専門医委員会／合同委員会	6月11日
第1回基本領域連携委員会	6月13日
社員総会	6月29日【予定】

②2019年度の専門研修プログラムは学会での一次審査が終了した。

[資料：専門医1]

③日本専門医機構から受領した「サブスペシャリティ領域の機構認定基準および申請手順（フロー）」について

[資料：専門医2]

八重樫伸生副理事長「産婦人科に関連する4つのサブスペシャリティの学会が集まって話し合いの場を持ち、出来る限り足並みを揃えたい。金銭的な負担、実務面での大きな負担（ペーパーワーク）が危惧されることから、慎重な対応が必要であると考えている。また、日本専門医機構理事会で

議論された参考資料には、『機構認定とならない場合は、学会認定の専門医として継続する。』との文言が入っている。このような方向性を探ってもよい訳だが、何れにしても関連4学会の足並みを揃えることがポイントとなる。」

**藤井知行理事長**「基本領域連携委員会に出席した際に、議論は二点あった。一点目は地域間のアンバランスである。初期研修医の分布状況からは、都会が地方の初期研修医を吸収していることが明らかである。特筆すべきは東京であり、千葉、埼玉、静岡から多数吸収している。但し、3年目にはその内の多くが地方に移っている。故に、今後は1年目から3年目までを合わせて地域配分状況を観ていく必要があるという意見が多数であった。産婦人科ではこれまで通り、地方へのローテーションを理事の皆さんにお願いしたい。二点目のサブスペシャリティについてだが、検討委員会からの申請締め切りが9月30日であることが明らかになった。」

## 8) 倫理委員会 (苛原稔委員長)

### (1) 会議開催

第11回 PGT-A に関する小委員会	6月19日
平成30年度第2回着床前診断に関する審査小委員会	7月24日 【予定】
平成30年度第3回倫理委員会	8月7日 【予定】

**苛原稔委員長**「PGT-Aに関する小委員会では、現在進行しているパイロット試験の登録を6月末に終了することを決定した。このことを研究参加施設に伝え、そのうえで今後の方針を検討することになった。次に着床前診断についてだが、本日の総会で改定案が承認されたら、新たな申請の受付を一旦休止し、秋から冬にかけて新しい体制を整えたいと考えている。」

### (2) 本会の見解に基づく諸登録 (平成30年5月31日)

- ①ヒト精子・卵子・受精卵を取り扱う研究に関する登録：80 研究
- ②体外受精・胚移植の臨床実施に関する登録：613 施設
- ③ヒト胚および卵子の凍結保存と移植に関する登録：613 施設
- ④顕微授精に関する登録：574 施設
- ⑤医学的適応による未受精卵、胚(受精卵)および卵巣組織の凍結・保存に関する登録：95 施設
- ⑥提供精子を用いた人工授精に関する登録：12 施設

### (3) 着床前診断に関する臨床研究申請・認可について [資料：倫理1]

6月11日現在申請741例 [承認624例、非承認22例、審査対象外36例、取り下げ5例、照会30例、保留4例、審査中20例] (承認624例のうち30例は条件付)

### (4) 着床前診断の実施に関する細則、様式改定案の変更について [資料：倫理2]

**苛原稔委員長**「着床前診断に関する本会の見解変更についてパブリックコメントを纏めた結果、本会の見解については変更しない。但し、細則については資料(倫理2)の通り若干の手直しを加えた。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

### (5) NIPTに関する小委員会の構成メンバーについて [資料：倫理3]

苛原稔委員長「小委員会のメンバーが固まったので、7月から活動を開始する予定である。」

(6) 「臨床研究審査小委員会」報告事項

- ①富山大学産科婦人科齋藤滋会員より研究計画変更の申請があった、「子宮収縮抑制剤の新生児への影響調査検討(承認番号51)」について5月17日に条件付き承認として審査結果を報告したが、一部書類の修正により条件が満たされたことを確認したため、改めて、6月19日に承認として審査結果を報告した。 [資料：倫理4]

9) 教育 (竹下俊行理事)

(1) 書籍頒布状況 6月21日現在

電子版(iOS版並びにAndroid版タブレット端末専用):ダウンロード 【5月末にて終了】

用語集単体	224
必修知識2013+用語集	206
産婦人科研修の必修知識2016-2018	636

書籍版:5月24日現在

	入金済み(冊)
産婦人科研修の必修知識2016-2018	969
産婦人科研修の必修知識2016-2018 電子版付き	562
産婦人科研修の必修知識2016-2018+例題と解説集	560
産婦人科研修の必修知識2016-2018 電子版付き+例題と解説集	710
用語集・用語解説集改訂第3版【販売終了】	3,259
用語集・用語解説集改訂第4版(書籍版)	285
用語集・用語解説集改訂第4版(電子版付)	645
若手のための産婦人科プラクティス【販売終了】	3,267
専門医試験例題と解説2014【販売終了】	1,221
専門医試験例題と解説2015【販売終了】	1,106
専門医試験例題と解説2016	1,243
専門医試験例題と解説2017	483
専門医試験例題と解説2018	1,022

(2) 必修知識について

2019年秋に発刊予定の「産婦人科専門医のための必修知識」については、査読システムを利用して内容の確認を行う。ガイドラインとの齟齬、重複などを避けるためガイドライン案も必修知識の編集委員が確認できるようにする予定である。

(3) 平成30年度専門医認定試験問題作成について

今回も多くのご協力を得て試験問題を作成していただいたので、機関誌にお名前を掲載して謝意に替えさせていただく。また、次年度試験問題作成委員についても依頼の準備を始めたい。尚、試験問題最終確認のための調整打合せ会を6月23日に開催する予定である。

(4) 世界保健機関(WHO)が国際疾病分類を約30年振りに改訂し、第11回改訂版(ICD-11)を公表した。

#### 10) 地方連絡委員会 (八重樫伸生委員長)

- (1) 地方連絡委員会を5月12日(土) 12:00~13:00に仙台国際センター会議棟3F 小会議室8で開催した。

**藤井知行理事長**「先日の大阪での震災の際、大規模災害対策情報システムの利用率が高かった。その理由の一つとして、昨年実施した訓練が挙げられる。地方連絡委員会の場でも、訓練の必要性については是非とも触れて頂きたい。」

### III. 理事会内委員会報告並びに関連協議事項

#### 1) 広報委員会 (榎本隆之委員長)

##### (1) 会議開催

第4回HP整理・改変事業WG	6月23日(土)
平成30年度第2回広報委員会	7月20日(金) 予定

##### (2) JOB-NET 公募情報について

JOB-NET 事業報告

[資料：広報1]

##### (3) ホームページについて

###### ① ホームページアクセス状況について

[資料：広報2]

###### ② ホームページのリニューアルについて

進捗状況：現在、[総合TOP/会員・医療関係/医学生・研修医/一般]ページのテストサイトを作成しており、ホームページ整理・改変事業WGで確認を行う予定である。

##### (4) ACOG Website 会員専用ページログイン人数について

[資料：広報3]

#### 2) 災害対策・復興委員会 (村上節委員長)

- (1) 8月4日に内閣府が実施する南海トラフを想定した平成30年度政府大規模地震時医療活動訓練小児周産期リエゾン連携訓練につき、厚生労働省DMAT事務局より協力要請があった。

本訓練において、想定被災地県や支援予定県など該当する県の地方連絡委員や医会会長宛てに、理事長名・委員長名の連名で大規模災害対策情報システムへの入力依頼、及びリエゾンにも協力依頼状を発信したい。

**村上節委員長**「今回の訓練対象である九州、四国地域の医会会長、地方連絡員等に宛て、本会の大規模災害対策情報システムへの入力依頼と、リエゾンへの協力依頼を発信したい。2~3週間以内に依頼状を発信したいと考えている。」

本件について特に異議はなく、発信内容についても全会一致で承認された。

(2)6月18日(月)大阪府北部を震源地とした最大震度6弱を観測する地震が発生した。まずは近畿地方の大学教授や医会会長などから情報収集を行い大規模災害情報システムの活用を呼びかけた。今後の余震や災害状況によっては災害対策本部を設置し医会と連携の上、人的・物資的支援を検討する。当委員会の課題として初期対応からのマニュアルを構築したい。

**村上節委員長**「今考えているイメージとしては、まずは学会側から応援の必要性を問いかけることが重要であることから、各地方ブロックの教授、医会長及びリエゾン等のキーパーソン、そして本会理事の先生方のメーリングリストを作成登録し、有事の際には逐一情報を共有できるようにしたい。次回理事会の場で、具体的な内容を示したいと考えている。」

**木村正副理事長**「今回の震災での教訓であるが、病院の女性スタッフに災害時にも事業継続の為に活躍頂くには、災害時における彼女達のお子さんの受け入れ(保育・学童保育)を検討しておくことが重要である。」

### 3) 診療ガイドライン運営委員会 (工藤美樹学会側調整役)

(1)産科編作成委員会 (板倉敦夫委員長)

①会議開催

ガイドライン 2020 産科編第4回作成委員会	7月11日 【予定】
-------------------------	------------

②「産婦人科診療ガイドライン-産科編 2017」頒布状況について (6月21日現在)

書籍版 : 12,092 冊

書籍版+ID/PW 付き : 2,163 冊

電子版ダウンロード : 1,535 件

(2)産科編評価委員会 (田中守委員長)

特になし

(3)婦人科外来編作成委員会 (小林浩委員長)

①会議開催

ガイドライン 2020 婦人科外来編第7回作成委員会	6月15日
----------------------------	-------

②「産婦人科診療ガイドライン-婦人科外来編 2017」頒布状況について (6月21日現在)

書籍版 : 7,327 冊

書籍版+ID/PW 付き : 1,790 冊

電子版ダウンロード : 1,433 件

(4)婦人科外来編評価委員会 (若槻明彦委員長)

特になし

4) コンプライアンス委員会 (山田秀人委員長)

特になし

## 5) 医療改革委員会 (海野信也委員長)

(1) 平成 29 年度 医療改革アクションプラン総括 (報告) [資料：医療改革 1]

(2) 平成 30 年度 医療改革アクションプラン案 (協議) [資料：医療改革 2]

海野信也委員長「今年度のアクションプランは、『産婦人科医の働き方改革』が大きなテーマとなる。国レベルでのコンセンサス構築に向け、産婦人科の特殊性を踏まえた上で主張していく必要があると考える。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。本会ホームページに掲載する。

(3) 「病院勤務産婦人科医の勤務環境の変化に関する調査」第二次中間報告 [資料：医療改革 3, 4, 5, 6]

## 6) 男女共同参画・ワークライフバランス改善委員会 (千石一雄委員長)

(1) 日本医師会女性医師支援センターより、「日本医師会女性医師バンク」の広報活動の一環として、チラシ及びリーフレットの 2 点を本会機関誌と同梱発送や機関誌への広告掲載について検討してほしいとの依頼があった。同センターでは 2~3 万円なら支払いが可能であるとのことであるが、機関誌との同梱については費用が 20 万円程度かかる。当委員会では予算面で無理だと思われるが最終的には理事会にて判断頂きたい。 [資料：男女共同 1]

本件については、費用対比で考えて特に必要ないとの判断となった。

(2) 日本医学会連合より、今後の資料とする為「男女共同参画など多様な背景を持つ会員の学術活動への参画と今後の支援方策に関する調査」としたアンケートへの回答依頼があった。 [資料：男女共同 2]

(3) ホームページ内コンテンツ「わたしの ON/OFF」に投稿頂いた 4 名の先生方の記事を掲載した。

## 7) 産婦人科未来委員会 (生水真紀夫委員長)

(1) 第 12 回産婦人科サマースクールについて  
会期：2018 年 8 月 18 日 (土) ~19 日 (日)  
会場：千葉県木更津市「かずさアーク」  
※6 月 1 日より募集を開始した。応募締切りは 6 月 29 日 23 時 59 分 (1 週間延長)  
応募状況：205 人 (6 月 22 日 AM11 時現在)

(2) 第 9 回スプリングフォーラム  
会期：2019 年 3 月 16 日 (土)、17 日 (日)  
会場：淡路夢舞台国際会議場、ウエスティンホテル淡路

(3) 第 13 回産婦人科サマースクール開催日程について  
会期：2019 年 8 月 10 日 (土)、11 日 (日) ないし 8 月 17 日 (土)、18 日 (日)

会場予約・予算・6年のマッチングなどから検討中

生水真紀夫委員長「現段階では、8月17日・18日に『かずさアカデミアパーク』での開催を検討している。」

(4) 第3回プラスワンプロジェクトについて

2019年5月11日(土)～12日(日)

会場予約・運営・費用などから東京：フクラシア東京ステーションを中心に検討中

(5) 第14回産婦人科サマースクール

会期：2020年8月22日(土)、23日(日)

会場：美ヶ原温泉「ホテル翔峰」・かずさアークを軸に検討中

(6) 専門医試験後のアンケート調査

7月28日、29日の産婦人科専門医試験後にリクルートアンケートおよび試験内容についてアンケートを取得予定(中央専門医制度委員会承認済)

(7) 日本医学会総会2019分科会特別展示

会場：2019年4月27日

会場：名古屋市

若手委員会作成のSF、SS、POP2のビデオ上映・ポスター発表などを行う

8) 女性活躍のための健康推進委員会(大須賀穰委員長)

(1) 会議開催

第1回女性活躍のための健康推進委員会	7月17日(火) 予定
--------------------	-------------

9) 医療安全推進委員会(村上節委員長)

(1) 一般社団法人日本医療安全調査機構より、平成30年5月末時点での医療事故調査制度の現況報告を受領した。 [資料：医療安全1]

(2) 日本医療安全調査機構より、「医療事故の再発防止に向けた提言第4号「気管切開術後早期の気管切開チューブ逸脱・迷入に係る死亡事例の分析」の発刊報告があった。当該刊行物は同機構ホームページで閲覧可能である。( <https://www.medsafe.or.jp/> )

(3) 日本医療安全調査機構より、医療事故・支援センターが行う1事例のセンター調査の為、本会の関東信越ブロックから審議に協力していただける個別調査員2名の推薦依頼を受領した。松田母子クリニック(埼玉)の松田秀雄先生と、神奈川県立こども医療センターの石川浩史先生を推薦した。

(4) 日本医療安全調査機構の定時社員総会が6月6日開催され、藤井知行理事長が出席した。

10) 公益事業推進委員会（八重樫伸生委員長） 特になし

11) 児童虐待防止のための女性支援委員会（荻田和秀委員長）

- (1) 公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンより「日本子ども虐待防止学会に於いて、第24回学術集会おかやま大会のプログラム・抄録集に、体罰等禁止法改正への関心を喚起し賛同を拡げることを目的とした意見広告を掲載する。については賛同団体として広告への団体名掲載を検討していただきたい」と本会への依頼があった。 [資料：児童虐待1]

本件については経済的負担もなく、全会一致で承認された。

III. 平成30年度定時総会運営について

- (1) 代議員からの質問・要望事項 特になし

V. その他

- (1) 幹事会からの提案

本会機関誌2月号の在り方（抄録の電子媒体化）、及び抄録データの集め方について

**阪埜浩司幹事長**「幹事会から一点提案させて頂く。5月に仙台で開催された第70回学術講演会で初めて活用した電子抄録が、質も高く非常に好評であった。今回の会場では、例年持ち歩いていた分厚い機関誌2月号（学術集會号）を持っている人を見かけることはなかった。一つ目の提案は、本会の機関誌2月号についてである。現在、この2月号には全てのプログラムと抄録が掲載されており、非常に分厚く重たい冊子となっている。この2月号の印刷製本と会員への郵送には、合わせて約1,700万円の経費が掛かっている。また、これ以上分厚くなると宅配便扱いになることから、更に経費が掛かることになる。しかし、仮に2月号から抄録部分を除いた場合には、今よりも約600万円の経費を削減できる。少なくとも幹事世代にとって、抄録部分はWebで見れたら充分であり、その方が持ち運びを考へても実用的であるとの意見が圧倒的多数であった。業界における世の流れも同様である。この機関誌2月号の在り方（抄録は電子媒体化）についてご検討頂きたい。次に抄録データについてであるが、今回UMINの抄録サービス終了を契機に、本会の抄録システムを新たに構築中である。よって、将来的な抄録データの活用も見据えた上で、抄録データの集め方も合わせて検討頂きたい。」

**藤井知行理事**「極めて重要な提案である。この理事会もそうであるが、本会としてもペーパーレス化に舵を切っており、実用性、コスト削減の両面から効果が出ている。本提案については、総務、編集、学術の3委員会で検討して頂きたい。」

- (2) 「医師の働き方改革」に対する本会からの提言について

**吉村泰典顧問**「国を挙げて取り組んでいる『働き方改革』について、お願いしたいことがある。医師

の中でも産婦人科は最も大変な診療科であることは事実である。それであるが故に、本会として『医師の働き方改革』に対する提言を纏めて頂きたい。是非とも、今年度の重要な課題として取り組んで頂きたい。」

**藤井知行理事長**「海野信也医療改革委員長と良く相談しながら、慎重に進めていきたいと考える。」

以上